

月刊島民

中之島

Vol.43 2012 2/1

橋を渡る人の「街事情」マガジン

ハカセの系譜。



ナカノシマ大学

今月は豪華2本立て/
中沢新一「アースダイバーで
わかった、大阪のこと」

&
プラネタリウムで学ぶ
大阪の天文学
申し込み受付中!

月刊島民 中之島 43号 2012年2月1日発行 編集・発行人／江弘毅（140B） 編集発行／月刊島民プレス 〒5300004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階 定価0円 Printed in Japan

こころまち つくろう
KEIHAN
京阪電車

私まで、物語のなかにいるみたい。



三十三間堂 楠葉けい子（大学生）

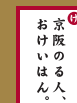
おけいはん、平清盛の三十三間堂へ おけいはんと平清盛

京都にある清盛ゆかりの地をめぐって、京阪電車で。

新熊野神社 法住寺 三十三間堂 六波羅蜜寺 六道珍皇寺 建仁寺 八坂神社 長楽寺
橋寺(放生院) 宇治川先陣の碑 平等院 石清水八幡宮 比叡山延暦寺 鞍馬寺 寂光院
祇王寺 滝口寺 法輪寺

詳しくは京阪電車主要駅でパンフレットをご覧ください。

※三十三間堂本堂内の撮影は特別な許可を得ております。通常は撮影禁止となっておりますのでご注意ください。



www.okeihan.net

〔江戸時代〕 町人科学者、知のリレー！。

江戸時代の大坂は、全国でも類を見ない学問シテイ。蘭学（医学）・天文学・化学など、自由に学問に打ち込んでいた。面白いのは彼らがみな、私塾をつくり、弟子をとり、「知のリレー」とも呼べるような関係が形成されていたこと。たどっていけば現代にも通じるサイエンティストの系譜を見ていこう。

文／嘉数次人（大阪市立科学館学芸員）

麻田剛立
あまた・こうりゅう
(1734-1799)



脱サラして
学問の道にのめり込む。

九州・豊後の杵築藩（現在の大分県）の出身で、幼い頃からの天文マニア。医学を学び、藩の御医にまで昇進したエリートだったが、仕事が忙しくて好きな天体観測ができないからと、地位を捨てて脱藩。大坂で町医者をしてながら、天文三昧の生活を送ったという筋金入りの星好き。新しい学問が好きで、ヨーロッパ伝来の天文学を積極的に取り入れただけでなく、医者としては動物の解剖を行なうなど、アグレッシブな人物だった。大酒飲みかつ大胆な人柄で、弟子からは「豪傑」と称されたほど。

間重富
はざま・しげとみ
(1756-1816)



星座に恋した
スーパー町人学者。

もともとは北堀江で質屋を営む裕福な町人で、麻田剛立の下で天文学を学んだ。その活躍が江戸の松平定信の目に止まり、幕府から暦を作成するように命ぜられ、あわせて幕府の天文役人の指導にも当たったスーパー町人学者。技術者としても優秀で、伊能忠敬の日本地図作成プロジェクトは、もともと間重富が西日本、伊能忠敬が東日本の測量を行う計画であったという。学問に忙しい中でも家業をおろそかにせず、家にあった蔵を11から15に増やしたという才覚も持ち合わせていたビジネスマンでもあった。

橋本宗吉
はしもと・むねきち
(1763-1836)



天才は、ちょっとアブない
実験もお好き。

オランダ語をマスターした最初の大坂人。若いころから記憶力抜群で評判だったことから、師匠にあたる間重富の費用援助を受けて、オランダ語習得のために江戸へ留学。その間、約4カ月で覚えた単語は4万語にのぼるといふ。留学後は大坂に戻って、開業医をしながら蘭学塾を開き、大坂に近代科学を根づかせる役割を果たした。研究面では特に電気に強い興味を持ち、エレキテル（静電気発生装置）の実験や、雷の電気を集める実験などを行い、日本の電気学の元祖とも言われる。

中天游
なか・てんゆう
(1782-1835)



蘭学のためなら
女房も泣かす。

京都出身の蘭学者・医師。江戸と京都で医学と蘭学を学んだ後、大坂に出て開業医をしながら蘭学塾「思々斎塾」を開いた。が、学問をこよなく愛する根っからの学者肌であったため、診察は奥さんにまかせて自分はもっぱら研究と塾経営に没頭。地動説や眼球の仕組みなど、オランダ渡来の医学や物理学の研究に励んだ。そのため経済的には苦労したが、弟子の緒方洪庵には「本格的な学問をするなら大坂より江戸だ」と言って留学を勧めるなど、商売っ気のないストイックな人であった。

緒方洪庵
おがた・こうあん
(1810-1863)



偉人を育て続けた
町人科学者のアンカー。

幕末を代表する蘭学塾「適塾」を開いた医師。門人帳に記された弟子の数だけでも636名に及び、福沢諭吉や大村益次郎ほか、幕末から明治にかけての激動の時代を背負って立つ人材を育てた。学問に対しては厳しく、人を助けるための医学を実践し、コレラ対策や天然痘の予防の普及にも力を尽くした。その一方、普段は温厚で人付き合いもよい粋人だった。師匠の中天游を深く尊敬し、「自分が死んだら先生の側に葬ってほしい」と日頃から言っていたが、幕府の医官として赴任した江戸で急死した。

Naka Science



有名な適塾は、オフィス街・淀屋橋に異彩を放つ。この学舎で洪庵は、日本の近代の礎を築く人物を育てた。



中が住んでいたのは西区江戸堀だった。江戸堀中公園の一角には、塾の様子などの説明書と、石碑が今も残されている。



エレキテルの解説書にはカエルやネズミに電気を通す実験の様子も。大阪府立中之島図書館に所蔵されており、閲覧可能。

決め手は人材！

ああ、麗しき 師弟関係。

江戸時代後期の大阪では、非常にハイレベルな科学研究が行なわれていました。その立役者となった町人学者たちを見ていると、人と人とのつながりが大切にされる大阪人の特徴が浮かび上がってきます。

江戸時代の人が何か学問を学ぼうとすると、現在のようにオープンではなく、とても閉鎖的な世界に飛び込まねばなりません。ふつう、師匠に弟子入りする時は「誓紙」と呼ばれる誓いの言葉を書いた書類を提出するのですが、そこには「先生から教えられる内容は、同門の弟子はもちろん、家族にも他言しません」といったことが普通に書かれていて、堅苦しい雰囲気が出ていました。ところが、大阪の町人学者からは、そんな閉鎖的な様子が感じられないのです。

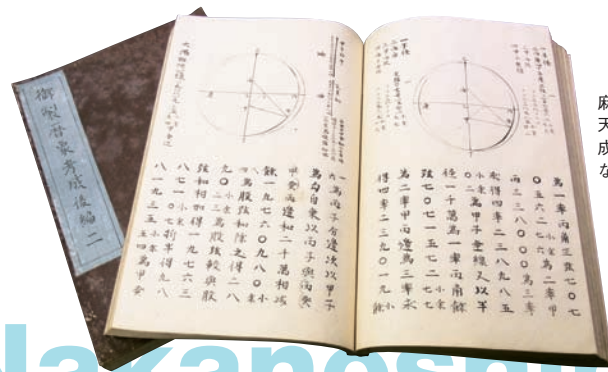
「来る者拒まず」、 オープンな学びの場。

大阪の天文学の基礎を築いた麻田剛立は、全国各地の天文学者たちと師弟関係を結ばずに、文通を中心とした情報交換を積極的に展開しました。しか



間重富が設計した天文観測機器「象限儀」。天体の地平線からの角度をはかるもので、伊能忠敬も使用（P7）。

麻田剛立らが研究した天文書である『暦象考成後編』。漢文で数式などが書かれている。



Nakanoshima Science

から離れていったのですが、その中でも変わらぬ交流を続けた弟子が、中天游でした。

その天游は学者肌の人で、奥さんに開業医の仕事をして自分は研究に没頭していました。そのため家計は苦しく、苦学生であった弟子の緒方洪庵にアルバイトを頼んでおきながら、その報酬も満足に支払えません。それでも洪庵は嫌がらないばかりか、のちに故郷に帰っていた時に師匠死去の知らせを聞いた洪庵は、急いで大阪に戻って師匠の塾の教師役を引き継ぎ、天游の遺族の面倒もみたのでした。

人と人の信用を 基礎とした師弟関係。

こうしてみると、町人学者の知のリレーは、お互いの境遇を超えて行われていたことがわかります。それは、彼らがお互いの学問を尊敬していただけでなく、学問を支えるのは「人」であることを彼らが認識していたからだと思います。

江戸期の大坂は、全国からモノ・金・情報が集まる商業都市ですが、その活動は「人」と「信用」によって支えられていました。そのことを知っていた大坂の科学者たちが、オープンな環境の中で知のリレーをしてゆく姿からは、実に大坂らしいユニークさが感じられてなりません。



阪大時代の湯川秀樹（後列左端）。理学部屋上にて同僚たちと。写真提供／京都大学基礎物理学研究所 湯川記念館史料室

日本人初の ノーベル賞受賞 理論はここで。

中之島にいた最も名高い科学者といえば湯川秀樹博士であろう。京都人の印象が強い湯川だが、昭和8年（1933）から6年間、大阪帝国大学理学部に勤め、日本人初のノーベル賞（物理学賞）となった中間子理論もその間に書いている。阪大赴任の前年に結婚して大阪へ移り住み、天満橋から毎朝京阪電車で母校の京大へ通った一時期



大阪市立科学館の北側には、「大阪大学理学部跡地記念碑」が残されている。

の回想が、自伝『旅人』の中にある。

：電車はカーブの多い線路をゆっくり走っていた。（略）もうすっかり見慣れた景色を、ぼんやりながめる私の頭に浮かんでくるのは、やはり核力の問題である。一体どこに、解決の手がかりを求めたらよいのであろうか。核力という、新しく登場してきた力は、それまでに知られていた様々な種類の力と、どう関係しているのであらうか。

【幕末・昭和】 博士の愛した中之島

あの有名人の科学にまつわる歴史小話集、
取材文／松本創志

気鋭の研究者が集まる新興大学だった阪大で、当時最先端の量子力学に取り組み、原子核構造の探究を目指した湯川だが、赴任当初は暗中模索が続いた。なかなか論文が書けず学部長から激しく叱責されたという、自伝にも「昭和七年の秋から九年の秋までは、私にとって最も苦しい二年間であった」という記述がある。だが、一方でこうも書いている。

この二年間に、私は学者としての大きな苦しみと楽しみとを体験しただけではなかった。家庭の中に、社会の中に生きてゆく人間としても、

「漫画の神様」の、 世代を超えた 結びつき。

湯川が阪大を去って数年後、医学専門部に入り、在学中にマンガ家デビューしたのが手塚治虫。医師の資格を有していたことは知られるが、マンガとアニメ制作で多忙を極めた時期に奈良県立医科大学に通い、医学博士の学位まで取っている。学位論文は「異型精子細胞における膜構造の電子顕微鏡的研究」。タニシの精虫の研究である。

手塚の科学的視点は、少年期から育まれたものであった。昆虫採集と観察に明け暮れ、四ツ橋に電気科学館が開館すると、プラネタリウムに通い詰めた。現在は市立科学館に保存されているカールツァイスII型機の鮮烈な印象をこうエッセイに綴っている。

ホールへはいった時の印象は強烈だった。あの鉄亜鈴の奇怪な姿は目に焼きついて、後年漫画の仕事の上で、しばしばイメージを流用させて

貰ったくらいである。

そのプラネタリウムの模様を導人に、学習漫画として描いたのが「漫画天文学」という作品。ちなみに、手塚を昆虫や天文の世界へ導いたのは、小学校の同級生の石原実氏。淀屋橋南詰に建つ石原時計店の5代目社長である。手塚の曽祖父は、幕末から明治期の医師・手塚良仙。江戸の種痘所設立などに尽力したが、青年期には北浜の適塾で緒方洪庵から蘭方医学を学んだ。手塚の名作「陽だまりの樹」には、豚の解剖やアンモニア抽出実験の話、漢方医塾生との軼事など、適塾生たちの学究生活が中之島界隈の風景とともに生き活きと描かれている。

手塚の『漫画天文学』で描かれたカールツァイスII型機。サイン入りで科学館に寄贈された。

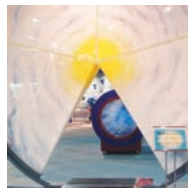


Dr.ギャラクシー

石坂千春【天文学】

いざか・ちはる 1997年より勤務。専門は宇宙物理学。著書『宇宙がわかる』は入門本に最適。

宇宙はどれだけ広いのか。どれだけ多くの星があるんだろう。故郷である信州の星空を眺めて空想した子どもの頃の疑問を、40歳を超えた今も追う星空エクスポローラー。何千億もある銀河たちのふるまいを研究するうちに「観測技術がすすみ、どうやら宇宙には果てがないことが分かった」という彼の「脳内宇宙旅行」はプラネタリウムで聴くべし。5月21日までは『さがせ！第2の地球』を投影中。



おすすめ展示
銀河系の大きさを示した模型。太陽系のサイズが見つけられないほど小さくて驚く。



ヨスモ渡部

渡部義弥【天文学】

わたなべ・よしや 1990年より勤務。専門は観測天文学。HPでは「星を巡る1001話」を執筆。現在75話。

宇宙から常に地表に降り注ぐ宇宙線の観測機械「スパークチェンバー」の前で、「目に見えるものがすべてじゃない」と哲学者のような台詞を言うコスモ渡部。実は人体にも宇宙線が常につきぬけているが、感じることはないのだそう。宇宙線が発見された頃には「体に届いた瞬間に人間の閃きが生まれている」なんて説も飛び出したほど謎めいた宇宙の世界について、子供との対話を楽しむプラネタリアンなのだ。



おすすめ展示
1970年からはじまった日本の科学衛星のあゆみが分かる展示。実物の10分の1の模型も。



シューティングスター飯山

飯山青海【天文学】

いいやま・おおみ 2002年から勤務。専門は地球惑星科学。小惑星探査機「はやぶさ」カプセル回収隊参加。

重さ40キロの隕石を抱える182センチのビッグマンは20年間流れ星を追いかけてきた。流星群の数をカウントし続けてきた趣味が、いつの間にか本業に。「数の多さに毎年あたりはずれがあるのが面白い」。流れ星といっても実際は1ミリくらいの小さな石ころ。大気圏にぶつかって燃えた光が見えているのだとか。燃えつきずに地表に落ちてきた隕石の成分を調べて、流星の謎に迫る。



おすすめ展示
鉄とニッケルからなるギベオン隕石は地下1階に展示。実際に触ってみてその重さを体感して欲しい。

頼れるキャプテン

加藤賢一【館長・天文学】

かとう・けんいち 1974年より勤務。専門は恒星分光。『イミダス』天文篇執筆。

四ツ橋の電気科学館時代から星の魅力を伝えてきた“ミスター科学館”。ジュニア天文講習会で彼の解説を聞き、天文学の道に進んだ加藤チルドレンも多い。今年4月館長に就任し、個性的なメンバーをまとめる。「1937年開館当時、富国強兵のムードが高まる工業都市・大阪に登場した日本初のプラネタリウムは科学技術を国民にアピールする装置だったのでしょう」と当時の考察も鋭い。



オダサクや手塚治虫も通った日本初のプラネタリウム（カルツァイスII型）の前で。

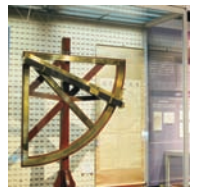


ヒストリー・キングカズ

嘉数次人【天文学】

かず・つぐと 1990年より勤務。専門は天文学の歴史という天文学系学芸員としては異色の文系。

天文学の歴史のことならカズに聞け。5000年前のメソポタミアから江戸時代の大坂町人天文学者の話まで、まるで見てきたように大阪弁で話すストーリーテラー。中国の星座にも精通し、西洋と東洋の星に対する人々の価値観の違いを分かりやすく伝えてくれる。「進取の気性に富んだ大坂町人たちが、西洋のすすんだ天文学を独自に学んだ江戸時代は特に興味深い」と、今回の特集でも町人科学者を解説。



おすすめ展示
江戸時代の天体観測に使われた象限儀。星の高度を巨大な分度器で測っていたという。



サンシャイン江越

江越 航【天文学】

えごし・わたる 2005年より勤務。専門はX線天文学。気象予報士、鉄道ファンと様々な顔を持つ。

「太陽って何だ!」という青春映画のタイトルのような疑問を探究する学芸員。「最も身近な星だけど、まだまだ分からないことだらけ」と黒点の大きさや数の変化を観察し気候変動との関係を考え、太陽から降り注ぐ粒子の影響に迫る。今年5月21日には太陽が月に隠れてリング状に見える「金環日食」が大阪でも見られるとあって、サンシャイン江越のテンションも上昇中。解説にも期待が高まる。



おすすめ展示
観測衛星「ひので」が撮影した太陽の映像。数千万度で燃えるフレアの迫力は必見。

オオサカ科学戦隊！ 中之島イレブン

大阪市立科学館のキレ者学芸員、大集合！

大阪市立科学館は、前身の大阪市立電気科学館から数えて70年以上の歴史を誇る。その一番の名物は、それぞれに専門特化した個性豊かな学芸員のみなさん。サイエンティストの系譜は、今も脈々と受け継がれていた。

取材・文：石坂千春（本誌）





ナカノシマ大学
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

21世紀の
懷徳堂
プロジェクト

大阪市立科学館コラボ講座 スペシャルナイト

「星空トーク 江戸時代の 大坂・町人科学者列伝」

講師／嘉数次人(大阪市立科学館学芸員)

ゲスト／高島幸次(大阪大学招聘教授・大阪天満宮文化研究所員)

プラネタリウムの映像で見る！朗読で聴く！
こんなにすごかった、大坂のスーパー科学者の物語。

江戸時代の大坂は、世界に誇れる科学者たちが集まるサイエンス・シティだった。今月の特集でもご紹介したように、江戸時代後期の大坂の街場では、町人科学者たちが自由に学問を楽しみ、天文学・電気・医学の分野で日本をリードしていた。私たちがよく知る緒方洪庵や福沢諭吉の活躍は、言わばこうした大阪科学100年の集大成なのだ。

今回はなんと全国でも屈指の性能を誇るプラネタリウムを有する、大阪市立科学館との連動企画。プラネタリウムに映

し出される星空の下、大阪科学の歩みを知ることができる。また、最近発売になったばかりの町人学者・間重富の伝記『星空に魅せられた男』の朗読もあり。さらに、ナカノシマ大学ではおなじみの高島幸次先生も登場し、大坂の街と天文学や星座との関係まで明らかに。大阪市立科学館と月刊島民、中之島のメンバー同士だからこそ実現した豪華企画をお見逃しなく！



嘉数次人さん
大阪の天文学の歴史のスペシャリスト！

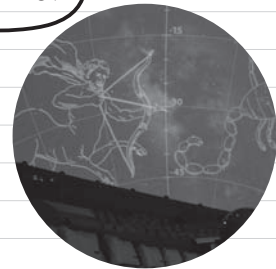


高島幸次さん
大阪の町の人たちと星座の関わりを語ります。

国内でも珍しい、中之島が誇る全天周型のプラネタリウム！フランス製の座り心地抜群のシートでくつろぎながらお聞きください。

◎今月の授業①

プラネタリウムで
寝ながら学べる！



募集要項	「星空トーク 江戸時代の大坂・町人科学者列伝」	お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。
	日時／3月17日(土) 6:30PM～8:00PM(開場6:00PM～) 会場／大阪市立科学館 プラネタリウムホール 受講料／1,500円 定員／300名(対象年齢:中学生以上) 主催／ナカノシマ大学事務局 大阪市立科学館 協力／大阪21世紀協会 くもん出版 鳴海風 高山ケンタ	〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階 「大阪市立科学館コラボ講座」受付係 FAX.06-4799-1341 ※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。 ※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

ナカノシマ大学の最新情報は

<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは
こちら！→



お問い合わせ☎06-4799-1340
(ナカノシマ大学事務局)



プラスチック・クイーン

岳川有紀子【化学】

たけがわ・ゆきこ 1998年より勤務。専門は有機化学。「プラスチック100年」で日本化学会年会優秀講演賞受賞。

スローガンは「プラスチック100年」。日常生活にものごく身近であるにもかかわらず、誕生からまだ100年と歴史の浅い「プラスチック」に魅せられた、中之島イレブンただ一人のなでしこ芸員。「こんなに急速に普及した素材はない」とロマンを語り、大阪の地元素材メーカーとのコラボ展示も企画。白衣の似合う「化学のおねえさん」として、サイエンスショーでは子供のココロをつかむ。



おすすめ展示

象牙、セルロイド、アクリル、ベークライトなど様々なプラスチック製品を展示したコーナー。

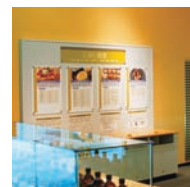


フレイバー小野

小野昌弘【化学】

おの・まさひろ 1992年より勤務。専門は無機化学。著書『元素が分かる』は化学が苦手な方にもおすすめ。

匂いや毒、薬、元素の周期表などの展示を担当するフレイバー小野。「匂いって何ですか」という疑問を投げかけると「分子が空気中に流れて鼻の中の粘膜について、その時の電気信号が脳に伝わるんです」とメカニズムをしっかりと解説。さらに「実は、うんちとジャスミンティーの匂いの分子構造は同じなんですよ」という小ネタまで披露するサービス精神は、さすがイレブンメンバー。



おすすめ展示

ピザやたこ焼き、松茸の香りを体感できる「におい食堂」は子どもたちに人気のコーナー。

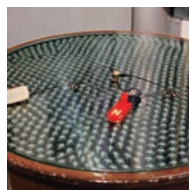


マグネット斎藤

斎藤吉彦【物理学】

さいとう・よしひこ 1991年から勤務。専門は素粒子物理学。磁石テーブルで「日本物理教育学会大塚賞」受賞。

「くっついたり離れたり…そんな好きですね」と磁石の力を目に見えるように展示してきたマグネット斎藤。ノーベル賞に輝いた南部陽一郎氏の「自発的対称性の破れ」を千個の方位磁石で教える展示を作り注目を集めた。一定の方向にそろった磁石の矢印が、強い磁石を近づけてかき乱すとバラバラになる。「群れたりケンカしたりして、人間そっくりですよん」と素粒子物理の世界に世相を読み解く。



おすすめ展示

「磁石のテーブル」は青いジャンパーを着たサイエンスガイドの解説がおすすめ。



ブーメランのヒロシ

大倉 宏【物理学】

おおくら・ひろし 物理学に親しみを持ってもらおうとブーメランを使ったサイエンスショーを企画。

ブーメランはなぜ戻ってくるのか。魔法でも手品でもない「歳差運動」という物理学の現象を教えてくれる「科学館のおっちゃん」は、ブーメランの世界チャンピオンの技術を分析するなど科学で渡りあう。「スポーツは科学なんですよ。どうやったら速く走れるか、高く飛べるかなど理屈を考える大切さを知ってもらいたい」。そんな思いを込め、オリジナル紙製ブーメランを1階ショップで絶賛発売中なのだ。



おすすめ展示

放射線を観察する「霧箱」。見えないものを見ることができると科学はもっと面白くなる。

大阪市立科学館

前身の大阪市立電気科学館のオープンから今年で75周年。昨年リニューアルしたプラネタリウムをはじめ、サイエンスショーや天体観望会など詳細はHP（<http://www.sci-museum.jp/>）で。「中之島イレブン」メンバーのページも充実。湯川秀樹が中間子理論を書きあげた大阪大学理学部があった場所で、小学校5・6年生が対象の「ジュニア科学クラブ」を開催するなど、次世代のサイエンティストを育てている。

☎06-6444-5656 9:30AM～5:00PM(入場～4:30PM、プラネタリウム最終投影4:00PM～) 月曜休(祝日・振替休日の場合は開館し、翌平日に休館) 展示場観覧：大人400円、高校・大学生300円、中学生以下無料 ※プラネタリウムホール観覧料は別途必要



レインボー長谷川

長谷川能三【物理学】

はせがわ・よしみ 1992年より勤務。専門は物性物理。サイト「そらみたことか」には驚きの光学現象が満載。

太陽が二つあるように見える「幻日」、頭の上に虹のようなものが見える「環天頂アーク」など、空を彩る光の現象を写真日記風にサイト「そらみたことか」で紹介する光のファンタジスタ。めったに見えない現象かと思いきや「きちんと空を見上げれば結構見つけることができる」のだとか。大阪でも見えるレインボーショーを見逃すなんてもったいない。現在は南港からの昼気楼を定点観測中。



おすすめ展示

電球や蛍光灯の光をスペクトルに分けて観察する展示。七色パターンが違って見える。

◎江戸と大坂を分けたもの

江戸時代、東京（江戸）では金を使っていた。金は定量で判子を押してあるから、交換する時は重さを量らず、判子の権威を担保にして流通していた。一方、大坂では銀が使われていたのですが、銀の場合は正確な重さが分からないから秤で量らなくちゃいけない。でも、いちいちこんな面倒くさいことはやってられないので、ここに「信用」が発生します。人間関係の中で信用を築くには時間が必要です。しかもそれを持続させるために、信用を大事にして社会をつくっていく。それが大坂と東京の大きな違いです。

定量のお金ではなく、不確定なものを交換し合うことによって、信用という人間同士の関係を強固なものにする。その上で成り立っていく商業資本主義が大坂で発達しました。今、資本主義の考え方が世界的に危機的状況に陥っている中で、それを脱するヒントを大坂の商人が残してくれているんじゃないかと思うんです。

（ナカノシマ大学2010年4月講座「大阪アースダイバーへの道」2010年4月16日）



◎大阪のなりたち

世界の大都市や文明は、たいてい川の河口につくられたり、三角州のような場所からだんだん発達してくるのが特徴なんです。その意味で言うと、**大阪は非常に原型的で古典的な成り立ちをしている。**大阪の学者たちは昔からものすごく大阪に誇りを持っていて、「大阪はパリに似ているんじゃないか」とよく書いています。それもそのはずで、パリはセーヌ川のほとりにできたシテ島という砂洲の上に生まれた街だったんですから。大阪では中之島が非常に高級な場所であるわけですが、あそこに立っていると「これはパリだね」と感じるのには確かにその通りなんです。

（ナカノシマ大学東京編「アースダイバーで読み解く、東京×大阪」2011年2月8日）



大阪の「土地の記憶」を呼び覚ませ

◎今月の授業②

講座の前に予習・復習！
中沢新一
「大阪アースダイビング」
語録。

◎北新地の「遊び」

銀座は、もともと霞ヶ関の官庁街で働く役人たちの接待場として造られた街。だからそこへ行く人はどうしても威張っちゃうけど、大阪の場合はそういう中央官庁とは縁がない。つまり、**北新地でのやり取りは、純粋な意味での遊びであるわけですね。**昔の遊郭と同じで、そこに出入りする人間は平等です。男と女はもちろん、客である男の中でも手代（下級役人）であろうが、壇さんであろうが、その空間の中では平等。北新地では、「誰が偉い」といったことをあまり感じません。「アジュール」なんです。

（『月刊島民』2011年10月号）



今月は豪華
2本立て！

2012年3月講座

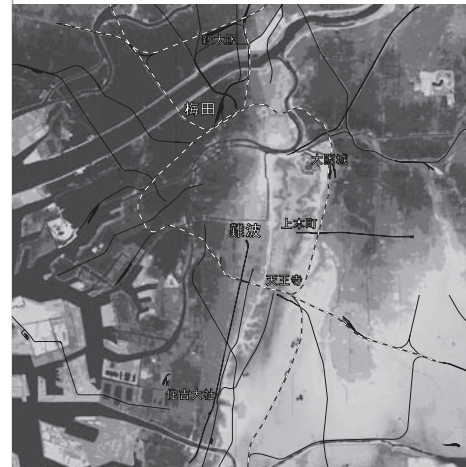
「アースダイバーでわかった、大阪のこと」

講師／**中沢新一**（明治大学 野生の科学研究所所長）

江 弘毅（『月刊島民』編集発行人）

コーディネーター／**釈 徹宗**（相愛大学教授）

調査5年、そして1年半にわたって連載した「大阪アースダイバー」が堂々完結！
中沢先生、大阪の見え方はどう変わりましたか？



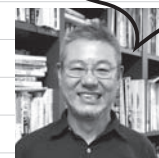
今から約5500年前の大阪の地形図。現在よりも3～5mほど海面が高く、色の濃いところほど水面が高い。（カシミール3Dで作成）

人類学者・中沢新一が、ナカノシマ大学に再びやって来る。2010年4月講座として行われた「大阪アースダイバーへの道」は、400人を超える人々が集まる大盛況となった。その時はまだ週刊現代での連載が始まる前。それから約2年が経ち、連載も今年の1月をもって堂々完結。その経過を楽しみにフォローしていた人も多いだろう。

生國神社や坐摩神社など、大阪を代表する神社でさえ、時代によって場所を移されていることを挙げ、中沢先生は大阪を「やわらかい土地」と表現する。お寺や神社といった宗教・歴史に深く関わる場所から、千日前に代表される繁華街、商人の町であった船場など大阪中をくまなく歩き、「土地の記憶」の解明に取り組んできた。調査に5年、連載期間は1年半というビッグプロジェクトは、今後いよいよ単行本として出版されることとなる。

その前に、中沢先生にアースダイバーによって見えてきた大阪の全貌の「調査報告」をしていただく。「風通しの良

わー、中沢新一先生と話できるんですか。それもわたしの地元・大阪について。大阪について考えたり語ったりするのは、地勢や風土、歴史や宗教、言葉や気質、食べ物や金儲けのことなどなど、変数群がぐちゃぐちゃに入り組んでいて、それらのあれやこれやをほぐして腑分けしたりすることはあまり有効ではない。そういうふうにいるのですが、そのぐちゃぐちゃなありようをすっきりした話で語っていただける（これは矛盾しているように見えるがしていい）希有な人が、中沢先生ですね。かっこいいですし、とても楽しみにしています。散髪行っとなあかんなあ。



江 弘毅
大阪の街場のこと、祭りのことならおまかせ。

さや、大人のコミュニケーション、こうした人の気持ちよさと食の豊かさは日本にも類がない」と話す中沢先生。アースダイバーの前後で、大阪の見え方はどう変わったのか？そしてこれからの展開はどうなるのか？中沢先生の肉声が大坂で聴ける久しぶりの機会をお見逃しなく。中沢先生、お待ちしております！

人類規模の壮大な視点から、私たちの日常の構造を読み解く。さらには、それを足がかりにこれからの社会のありかたまで語るアースダイバー。中沢新一先生が「大阪」に眼をつけたのは、ゆえなきことではありません。「大阪アースダイバー」こそ、今、必要な作業なのです。心から大阪を愛する二人、中沢新一×江弘毅の語りで視界が変わります！



釈 徹宗
宗教・歴史の圧倒的な知識から大阪を俯瞰。

「アースダイバーでわかった、大阪のこと」

日時／**3月23日（金）** 7:00PM～（開場6:00PM～）
会場／北御堂・津村ホール
受講料／2,000円
定員／200名（売り切れ次第終了）
主催／ナカノシマ大学事務局
協力／明治大学 野生の科学研究所 大阪21世紀協会

★ご注意★ こちらの講座は、受講料前払い制です。受講料お支払い時点で申し込みが完了します。ファックス、ハガキでの受付は致しません。

【1：インターネットからのお申し込み】
ナカノシマ大学の申し込みページの案内にしたがって、チケット購入サイト「eプラス」にてチケットをお買い求め下さい。

【2：郵便振替でのお申し込み】
下記の口座番号にお申し込み下さい。ご入金を確認でき次第、チケットをお送りします。なお、郵便振替のご入金通知が事務局に届くまでに1週間ほどかかります。ご注意ください。
口座番号：00990-5-299267 加入者名：カ）イチヨンマルビー

ナカノシマ大学の最新情報は
<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは
こちら！→



お問い合わせ ☎06-4799-1340
（ナカノシマ大学事務局）

今はもうないが、中之島のフェスティバルホールの東側に、SABホールという劇場があった。ここはテレビの収録などもやっていたが、東京の岩波ホールが主宰する「エキブ・ド・シネマ」という名画のシリーズを多く上映していた。私は新聞の映画評でおもしろそうな作品を見つけると、よく一人で観にいった。

いちばん印象に残っているのは、ゲオルギー・シエンゲラーや監督の『ピロスマニ』という作品だ（1969年・ソビエト映画）。グルジア（カスピ海と黒海の間の国）生まれの独学の放浪画家、ニコ・ピロスマニの生涯を追ったもので、画面は青と灰色を基調とし、物語はさしたる事件もなく淡々と進む。

ピロスマニは居酒屋の看板を描いたりして生計を立てているが、主人に牛を赤い色に塗るよう指示されると、「よけいな口出しをするな。商売だけやってろ」と、憤然と立ち去ったりする。ずっと無名だが、あるときフランスの美術評論家に見いだされ、一躍脚光を浴びる。サロンに招かれると、緊張した面持ちで、「町の中心に大きな木の家を建てませんか。皆が集まって、お茶を飲みながら芸術を語るんです」と挨拶する。拍手で迎えられるが、すぐに忘れ去られて、ふたたび不遇と貧困に身を沈める。ラスト、訪ねてきた友人が「何をしている」と聞くと、「死ぬところさ」と答え、それでも友人の肩を借りて復活祭に出かける。

セリフも場面転換も少ない映画だが、絵に魂

途中で寝た。

寝たといえば、イタリアの巨匠、ルキノ・ビスコンティの作品群でも、ときどき睡魔に襲われた。SABホールで観たのは、『家族の肖像』だったと思う。バート・ランカスター演じる孤独な教授が、美貌の左翼青年（ヘルムート・バーガー）とその愛人（シルヴァーナ・マンガノ）らの闖入で、静かな生活を乱され、最後は死に至るという悲劇的な内容である。疑似家族にささやかなつながりを求める老いた教授が、なんとも哀れだった。

『山猫』は、19世紀のシシリー島で暮らす公爵の物語で、バート・ランカスターやアラン・ドロンが出ていたが、これも3時間を超える大作で、途中で居眠った。しかし、それは作品が退屈なのではなく、私に鑑賞力がなかったせいだろう。数年前、『山猫』の完全版が上映されたので観に行くと、今度は眠気が差すどころか、全編おもしろくて、バート・ランカスターとクラウディア・カルデイナーレの長いワルツのシーンなどは、思わず見惚れてしまった。

ヴィスコンティの作品は、ほかに『ルードウイヒ』『地獄に堕ちた勇者ども』『ベニスに死す』『イノセント』などを観て心酔し、ほとんどDVDを買って今もときどき観ている。

中之島ではないが、堂島にあった大毎地下劇場にもよく足を運んだ。ここはSABホールよりポピュラーな名画をよく上映した。マーチン・

を奪われたピロスマニの密やかな情熱が伝わってきて、私は心を奪われた。小説に執心しつつも、まったく行く先が見えず、内心ではのたうちまわりながら、表面上はふつうに振る舞っていた当時の私の心情に、ぴたりと重なったのかもしれない。

ピロスマニの絵も大いに気に入り、展覧会があれば、東京や神戸に観に行つた。作品は黒い防水布に描かれていて、絵具を節約するためか黒い部分は塗り残しの技法が使われている。そのため、目や眉が異様にくっきり見える。ピロスマニにはマルガリータという女優を描いた絵があり、彼がこの女優に恋をして、大量のバラを贈ったという逸話（映画には描かれない。創作との説もあり）にちなんだ歌が、『百万本のバラ』である。日本でも加藤登紀子が歌ってヒットしたので、ご存じの方も多いだろう。



ほかに同じくグルジア人の監督、オタール・イオセリアーニの『落葉』や、ギリシヤ人監督、テオ・アンゲロプロスの『アレクサンダー大王』なども強く印象に残っている。

前者は、ワイン工場で政府のノルマを果たすために、まだ熟成していないワインを出荷しようとした工場長らを、純真な若い職人が告発する内容で、社会主義体制の否定的な面を描いている。女性を巡るさや当てもあるが、ラストで告発した主人公ではなく、告発に反対した恋敵が女性と楽しげにボートに乗っていて、妙なりアリティがあった（現実はそのようなもの）。

後者は、ギリシヤに再来するという伝説の王アレクサンダーが、20世紀初頭、農民たちの土地の解放を求めて、イギリズ人貴族を誘拐するというストーリーで、ギリシヤ劇風の長まわしが多用され、3時間半にちかい作品だったので、

中之島から青春記③久坂部羊

中之島シネマ巡り

スコセッシ監督の『タクシードライバー』（ロバート・デ・ニーロ主演）、ボブ・フォッシー監督の『レニー・ブルース』（ダスティン・ホフマン主演）、メル・ブルックス監督の『ヤング・フランケンシュタイン』（ジーン・ワイルダー主演）などを観たのはこの劇場だった。

もつとも強く感情移入したのは、『タクシードライバー』のデ・ニーロ扮するトラビスである。ベトナム帰りのトラビスは、不眠症のため夜間のタクシー運転手になる。客は酔っぱらいやヤクザや売春婦たち。トラビスは墮落した町への嫌悪を日記に綴る。彼は変わり者で、せっかくデートにこぎ着けた美女（シビル・シエパード）を、ボルノ映画に誘ってフラれたり、少女売春婦（ジョディ・フォスター）にまじめに更正を説いたりする。貯めた金で銃を何丁も買い、自分で細工をして、腕を振ったら袖から銃が飛び出す仕掛けなどを作る。腕立て伏せや懸垂で身体を鍛え、モヒカン刈りにして、偽善的な大統領候補を暗殺に行く。しかし、失敗してその足で少女売春婦を搾取していたポン引きのアジトに向かい、全員を射殺する。

ラスト。トラビスは自らも重症を負ったはずなのに、何事もなかったかのようにタクシーを

運転している。たまたま乗せた元恋人に事件のことを聞かれても、「肩が凝る」くらいしか言わない。次の瞬間、鋭い光がバックミラーを過ぎり、トラビスは視線を翻す。事件は事実なのか、トラビスの妄想なのか……。汚い字の日記、銃の細工、鏡相手にやる銃撃の予行演習など、鬱屈した男の狂気がたまらない魅力だった。

最近はこの感情移入のできる映画が少ない。派手なアクションか、アホらしいハッピーエンドばかり。当時は東梅田にもう1軒、シネマ・ヴェリテという名画座もあり、アングラ系のマニアックな映画を上映していた。だが、この劇場ももうない。残っているのは九条のシネ・ヌーヴォくらい。

名画は難解なものが多いので、どこがおもしろいか上手に解説する必要がある。解説が必要な作品は、完成度が低いといわれるが、鑑賞力の未熟な客に伝えるには、それも致し方ない。作品だけでわかりやすく描くと、成熟した客からは、深みがないといわれてしまうから。

小説にも同じことがいえる。だから苦労する。わかりやすく、おもしろくて、かつ深いという作品は、見果てぬ夢かもしれない。

くさかべよう 1955年生まれ。大阪大学医学部卒業。麻酔医、外科医、在外公館での医務官としても勤務した後、2003年『廃用身』（幻冬舎文庫）でデビュー。現代医療への提言と生きること・死ぬことについて考える契機に満ちた作風が人気を呼び『破裂』は10万部を超えるヒットに。『今月、長編『第五番』（幻冬舎刊）が出ます。東京、ウィーン、神戸を舞台にした医療サスペンス。『ダ・ヴィンチ』3月号に「こんげつのブックマーク」で、恥ずかしながら著者インタビュー出ています』



レクチャー&対話プログラム「ラボカフェ」

読書・哲学・鉄道など、毎月リアルタイムなテーマでカフェ風ワークショップを行っている、
京阪電車中之島線なにわ橋駅地下1階の「アートエリアB1」。2月のラインアップはこんな感じ。

5	日	2:00PM～ 4:00PM	ワークショップデザイナー・カフェ「ワークショップデザイナーの場作り」 定員:30名 大阪大学ワークショップデザイナー育成プログラムの修了生たちと共に、ミニワーク体験を通して“場作り”について考えます。
8	水	7:00PM～ 9:00PM	中之島哲学コレージュ／書評カフェ「妊娠中絶の生命倫理」 定員:50名 哲学論文集『妊娠中絶の生命倫理』の監訳者をゲストに迎え、内容を解説してもらったあと、妊娠中絶について議論します。
11	土	4:00PM～ 6:00PM	グラスルーツ・ミュージック・ワークショップ「アメリカンフィドルの旅」 定員:180名(有料／事前申込制) 悪魔の箱と呼ばれるヴァイオリン＝フィドルの魅力を探索を試みます。詳細は下記問い合わせ先または http://artarea-b1.jp/
12	日	1:30PM～ 3:00PM	オムツカフェ「人間にとって排泄とは？」 定員:30名 生きる上で欠かすことのできない排泄に関する基本的な考え方と、人間の排泄に特有のマナーやタブーについて考えてみます。
17	金	4:00PM～ 9:00PM	三十路カフェ ～ワークスタイル編～ 定員:30名 30代の生き方について考える三十路カフェ。昨今注目を集めつつある「コワーキング」について考えてみましょう。
19	日	2:00PM～ 4:00PM	マンガカフェ15「フレンチ・コミックス＝BD最前線」 定員:50名 マンガファン注目のフランスのコミック＝バンド・デシネ(BD)の翻訳家・研究者の原正人さんを迎え、BDの世界を紹介します。
24	金	7:00PM～ 9:00PM	中之島哲学コレージュ／哲学セミナー「避妊の責任は男女が等しく負うべきか？」 定員:50名 正しく服用すれば100%近い避妊効果が得られるビル(経口避妊薬)を題材に、「避妊の責任」について考えたいと思います。

会場／アートエリアB1 参加費／11日のみ有料 当日先着順・入退場自由 問い合わせ／[内容について]大阪大学コミュニケーションデザイン・センター(CSCD)
☎06-6850-6632 [場所などについて]アートエリアB1 ☎06-6226-4006 ※内容は予告なく変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。



大阪大学21世紀懷徳堂

●Handai-Asahi 中之島塾 大阪大学が朝日カルチャーセンターと共催しているセミナーです。

4	土	10:30AM～ 12:00PM	「『安らかな死』と『尊厳ある死』をめぐる」霜田 求(京都女子大学現代社会学部教授／大阪大学大学院医学系研究科招へい教員) 望まない延命を拒否し自然な死を迎えたいという考え方(いわゆる尊厳死)など、「死に方」をめぐる問題について考えます。
4・18	土	1:30PM～ 3:00PM	「くすりの話」那須正夫(大阪大学大学院薬学研究科教授) 身近なくすりの基本的な知識から最新の話題。また印籠の中身や漱石の飲んだくすりなど、くすりを生活と文化から紹介します。
17	金	1:30PM～ 3:00PM	「おもしろ日本語学 ～社会方言の世界」小矢野哲夫(大阪大学大学院言語文化研究科教授) 業界用語、若者ことば、男性語・女性語など、年齢・性別などによって異なる「社会方言」の世界を垣間見てみましょう。
18・25	土	10:30AM～ 12:00PM	「はやぶさと太陽系小天体探査の新時代」土山 明(大阪大学大学院理学研究科教授) はやぶさ計画の概要から小惑星や隕石についての基礎知識。宇宙から採取したサンプル分析の展望などについて幅広く解説します。

会場／大阪大学中之島センター インターネット、電話、FAXか、朝日カルチャーセンターの窓口でお申し込みください。 <http://www.asahiculture.com/nakanoshima/index.html> ☎06-6222-5224 FAX.06-6222-5221 問い合わせ／朝日カルチャーセンター(中之島)☎06-6222-5224

●大阪大学×大阪ガス「アカデミクッキング」 「専門分野の講義」&「料理実習」で学問するココロ。が実践的に身につきます。

3/23	金	6:30PM～ 9:00PM	「賢くてずるいあなたの口」館村卓(大阪大学大学院歯学研究科准教授) 課題料理／八宝菜、キュウリの胡麻油風味、中華スープ、麦ご飯、ナタデココ入りデザート
------	---	-------------------	--

会場／大阪ガスクッキングスクール千里 申込受付期間／2月1日(水)～14日(火)web申込受付は2月1日12:00PM～、電話受付は2月7日(火)2:00PM～ ※申込多数の場合は抽選の上、当選者におのみ2月15日(水)に案内を発送。申し込み・問い合わせ／大阪ガスクッキングスクール千里☎06-6871-8561 <http://www.og-cookingschool.com/>

●市民公開フォーラム「認知症とむかいあう、となりあう」

12	日	0:30PM～ 4:00PM	認知症に関する正しい知識を伝えるとともに、医療と介護、地域社会が連携し、ご本人とご家族の穏やかな在宅生活を助ける手段について、大阪大学の研究者が試みを報告します。
----	---	-------------------	---

会場／大阪市中央公会堂 定員／500名 入場無料(当日先着順) お問い合わせ／認知症市民フォーラム事務局☎090-6754-8571 handaiichiikirenkei@gmail.com

21世紀の懷徳堂プロジェクト 2月の時間割

ナカノシマ大学ほか、中之島周辺の「学びの場」の時間割をご紹介します。

◎21世紀の懷徳堂プロジェクトとは… ナカノシマ大学が、(財)大阪21世紀協会、大阪大学、大阪市と連携しながら、大阪の街に「市民が学ぶための場所」を広げていくためのムーブメントです。



大阪カルチャークラスター!!

大阪カルチャークラスター!!(OCC!!)では、大阪にあるカフェやギャラリーなどで独自に企画・運営を行っている講座・ワークショップを一堂に集め、紹介していきます。

※大阪カルチャークラスター!!(OCC!!)では、参加店舗を募集中です。お問い合わせはsingles@do.ai(common café)まで。

4・5	土 日	1:00PM～ 3:00PM	「ギフトアイシングクッキー」nicohoho(クリエイター) 参加費:3,150円 アイシングクッキーを気軽に楽しんでいただけます。パレンタインに向けお家で作る際のアドバイスも。	会場 E
11	土	6:00PM～ 8:00PM	「三日月豆の苔玉教室『パレンタインにハートの苔玉』」松本佳子(苔玉と緑の店「三日月豆」店主) 料金:3,800円(材料費+夜食付き) 大切な人へのプレゼントにも素敵ですし、自分のために作るのもいいですね。男性参加も大歓迎です★	会場 F
11	土	11:30AM～	「『ピーター・バラカン 音楽日記』刊行記念DJトークショー」参加料:700円(1ドリンク付き) ピーター・バラカン氏セレクトによる音楽と、音楽のもっと深～いお話をお聞きいただけます。	会場 H
12	日	11:00AM～ 2:00PM 5:00PM～ 8:00PM	「食卓の手仕事『プロから習う。キムチを漬けよう!』」岩崎優香(元・韓国料理店「YUYU」店主) 料金:4,500円(仕込みキムチ+キムチ鍋ごはん)ソウル出身のyuyuさんが、韓国の家庭の味を教えてくださいます。	会場 F
12	日	2:00PM～ 6:00PM	「ワニの母さんをつくりましょう!」IRIIRI(にんぎょう作家) 参加費:5,250円(お茶とお菓子付き) エプロン姿のワニににんぎょうは、やや大きめ(30cm)。締結め～ペイントの仕上げまで楽しんで作りましょう。	会場 E
14	火	7:00PM～ 8:30PM	「落語講座～入口遊びで出口は文化!」桂蝶六(落語家) 受講料:2,000円(テキストつき) 初心者のための落語講座。発声や心意気をプロに学びます。日常の話し方にも役立ちます。	会場 C
18	土	2:00PM～ 4:00PM	「工作教室Coppa!! ―風を作って飛ばそう!」ムラバヤシケンジ(アーティスト) 料金:1,600円 ビニール袋を使っの簡単タコ作り。楽しい絵を描いて、大空高く飛ばしましょう!	会場 B
18	土	2:00PM～ 4:00PM	「初心者のための絵画塾～オイルパステル」柿坂万作(画廊喫茶フレ임ハウス店主) 受講料:2,500円 (画材費込み) オイルパステル(クレパス)を使って身近な静物を描いてみましょう。エプロン、手ぬぐいお持ち下さい。	会場 C
18	土	2:00PM～ 4:00PM	「ボーボー屋の大人のたしなみ『今の保険でいいですか?保険の見直し講座』」川島大樹(ファイナンシャル・プランニング技能士)・大田保恵 料金:1,500円(お茶付き) 保険のプロに聞く、今の時代に本当に必要な保険とは? ※保険の勧誘などは一切ありません。	会場 F
19	日	10:00AM～ 11:30AM	「カフェで冬の歌を歌いましょう」西影純枝(ソプラノ) 受講料:2,000円(ケーキ+コーヒー付) ヴォイストレーニングを受け、冬の夜、ベチカ、冬景色などを気持ち良い声で歌いましょう。	会場 D
19	日	2:00PM～ 5:00PM	「人生の献立をミニバッグに刺繍しよう、の会」神尾茉莉(衣装作家) 参加費:3,500円(材料費込み) 大好きなことや大事なことを自由に刺繍したミニバッグを作ります。初心者の方でも簡単。手ぶらでお越し下さい。	会場 E
21	火	7:30PM～ 9:30PM	「石原正一のヨミすぎ!～古今東西名作朗読会～」石原正一(役者・作演出家) 受講料:1,500円 古今東西の名作を読みまくる夜です。具体的に配役に分けて、名作文章の世界を楽しんでいただけます。	会場 A
23	木	7:00PM～	「聴いて読む&洋書絵本を読む」山崎一郎(翻訳家) 参加費:1,500円(お茶付き) 今回は、アンソニー・ブラウン著『The Shape Game』を読む予定です。	会場 G
25	土	11:00AM～ 2:00PM 6:00PM～ 9:00PM	「DVD『ミツバチからのメッセージ』上映会」坂東武子(ばんどう酒店) 料金:2,500円(映画+オーガニックランチ+お茶) ミツバチ大量死の現場から、ネオニコチノイド系農薬の生態系と人体への影響について学ぶ。	会場 F
26	日	11:00PM～ 2:00PM	「三日月豆の苔玉教室『苔箱庭を作りましょう!』」松本佳子(三日月豆・店主) 参加料: 5,000円(箱庭材料+お弁当+お茶) 15cm角の正方形の木箱に、植物と苔と石を使って箱庭を作ります。木箱は焼き板と白と選べます。	会場 F
26	日	1:00PM～ 4:00PM	「星の王子様刺繍の小物入れワークショップ」annas 川畑杏奈(刺繍作家) 参加費:4,200円(材料費、税込) 星の王子様を刺繍して、鏡つきの小さな小物入れつきコンパクトに仕立てます。終わった後はお茶とお菓子つき。初心者OK。	会場 E

A common café ☎06-6371-1800

B Morrison(studio) ☎080-3113-4816

C フレームハウス ☎06-6226-0107

D カフェ アンドール 本町店 ☎06-6423-0584

E タビエスタイル ☎06-4963-7450

F ボーボー屋 ☎06-6531-7827

G 貸本喫茶ちようちよぼっこ

<http://www.geocities.co.jp/chochobock/>

H スタダードブックスストア ☎06-6484-2239

この写真は昭和10年（1935）7月5日、肥後橋の南から朝日新聞社の全景を捉えたものだ。これまで取り上げてきた本社本館（大正5年）、時計塔の後ろに黒い朝日会館（大正15年）、そして高く聳える朝日ビル（昭和6年）が写っている。いずれも大阪に本社を構える竹中工務店の設計・施工によるものだが、全体の調和に配慮したという感じはなく、そこに統一感を見出すことは難しい。ちなみに各設計者の完成時の年齢をみると、本社本館を設計した藤井厚二が28歳、朝日会館の松下甚三郎は35歳、朝日ビルの石川純一郎が34歳。3人とも竹中工務店の各世代をリードするホープだ。若い情熱で設計に臨んだ彼らは調和よりも個性、誰もデザインしたことがない最新の建築を追い求めたのだろう。朝日新聞社の側にも、個性の競演を受け止める懐の深さがあった。そして近代という時代そのものもまた、若かった。

都市美を
伝えて
朝日新聞と
中之島の130年
取材文／高岡伸一



この写真は大きく引き伸ばして印刷されたもので、「大阪朝日新聞社全景」とタイトルが付けられている。肥後橋と渡辺橋は現在のものとは異なる重厚なデザインで、四つ橋筋の歩道は今よりもゆったりしている。
写真提供／朝日新聞社史料編集センター

備がはじまった中之島遊歩道に敷地を提供するまで、残っていた。周囲にも少し目を向けてみよう。写真の左に写る高層ビルはリーガロイヤルホテルの前身である新大阪ホテルだ。

中之島フェスティバルタワー
中之島フェスティバルタワー
提供／株式会社 朝日ビルディング
<http://www.asahi.com/festivaltower/>

第五話

個性の競演

昭和10年の中之島の風景から――

に建てられたもので、4階建ての細長い建物には出版編集部や航空部の他、医局や倶楽部といった福利厚生部門がおさめられた。竣工を知らせる社報には「東洋のベニスの風光にふさわしく軽快なる雄姿」とあり、この時代も水都・大阪を強く意識していたことが伺える。河岸にはジブクレーンが設置され、新聞用紙の大きなロールがここから荷揚げされていたという。これもまた竹中工務店の設計・施工で、昭和53年（1978）より整備がはじまった中之島遊歩道に敷地を提供するまで、残っていた。周囲にも少し目を向けてみよう。写真の左に写る高層ビルはリーガロイヤルホテルの前身である新大阪ホテルだ。

昭和10年（1935）1月16日の開業だから、完成して間もない姿ということになる。大きな吹抜のロビーをもつ豪華な造りで、昭和48年（1973）に閉鎖されるまで、大阪における迎賓館の役目を果たしてきた。右下に少しだけ写っているのは大阪中央郵便局だ。明治4年（1871）に近代の郵便制度がスタートして以来、昭和15年（1940）に大阪駅前へ移るまで、実は中央郵便局は中之島にあった。

現在のキタはオフィスビルや百貨店が立ち並んでいるが、ビルの隙間から覗く梅田方面は、どこまでも続く木造の瓦葺根だ。昭和10年頃の大阪は中之島界隈が最もモダンで、都市機能の中心だったのだ。

ナカノシマ大学 講義レポート

2011年12月5日(月)

久坂部 羊さんと一緒に読もう！ 「中之島ふらふら青春記」読書会

講師／久坂部 羊（作家・医師） @カフェ トゥレ ジュール

昨 年末に開催された読書会は、本誌で人気連載中の「中之島ふらふら青春記」の著者・久坂部羊さんご本人をお招きし、連載の創作裏話や中之島での思い出を語っていただく贅沢なもの。月刊島民プレスの松本創のナビゲートで、今月で33回目となる青春記の創作秘話が語られた。

予備校1年、阪大キャンパスに4年、研修医として2年の計7年を中之島で過ごした久坂部さん。「最初は中之島における学生時代の話を含め6回で書く予定のはずだったのに…」と首を傾げつつ、編集部への熱心な働きかけもあり、ファンを着実に増やし続けてきた。

中之島キャンパス時代の同級生で、大阪大学医学部の仲野徹教授も参戦。連載を改めて読み返し、「当時から勉強してないとは思ってたけど、ここまで勉強してなかっ

たととは」と驚きを隠さない。それでも、久坂部さんは「僕は医者になりたくなかったから、勉強が嫌いで講義ノートは一切残っていません」ときっぱり。「残っていないじゃなくて、元からないんやろ」と仲野先生がツッコミ返すなど、爆笑の連続だった。

後半には受講生との質疑応答も。「久坂部さんのように患者さんの気持ちを思い悩む人は稀ですか？」との質問には、「医者になったかと思ったら考える暇はない。そこに患者の不満が生まれる。極端に言えば無愛想で腕のある医者か、愛想はよいが腕のない医者かどちらかです」とのお答え。他にも「どこまでがネタでどこまでが真実ですか？」の問いには、「ぜんぶ



真実なのにちょっとショック」と言いながら、一つ一つの質問に丁寧に答えていた。

新刊も続々と出版され、今後ますますファンを増やそうと勢いの久坂部さん。笑いあり考えさせられるテーマあり、今後もぜひ島民で書き続けていただきたいと願う充実した読書会となった。

i SPOT 淀屋橋odona アイ・スポット通信

淀屋橋駅直結の複合型商業施設「淀屋橋odona」の2階にある情報発信スペース「アイ・スポット」では、大阪の歴史に関する展示が無料で見られるほか、月刊島民をはじめとするフリーペーパーなど街の情報も集まっています。さらに、毎月さまざまなミニセミナーも開催。会社帰りに、街遊びのついでに、ぜひお立ち寄りください！

●大阪大学21世紀懐徳堂 i-spot講座 いろんなものさしシリーズ

29	水	6:30PM～ 8:00PM	「私の頭の中の『時間』のものさし」田中沙織（大阪大学社会経済研究所・特任准教授）定員30名 「時間のものさし」をテーマに、脳科学の研究を紹介しつつ、脳科学と経済学のコラボレーションの意義や可能性について考えてみます。
----	---	-------------------	---

お申し込みは、アイ・スポットへ講座名・受講者ご本人のお名前・電話番号を、電話かメール、FAXでお知らせ下さい。
なお、定員に余裕がある場合は、当日入場も可能です。

どなたでもお気軽に 申し込み不要、会社帰りにふらりと行ける講座もいろいろ。

トーク	13	月	7:00PM～ 9:00PM	都市大阪創生研究会presents「港からみえる水都大阪」第3回：港区探訪 ナビゲーター：山納洋（大阪ガス）ゲスト：福田頼隆氏（天保山みなアート会・みなと秋まつり実行委員会） 大阪の港湾エリア各区について、その歴史的背景や現状に詳しい方にお話をうかがい、各エリアの今後の展望を探っていきます。
トーク	20	月	7:00PM～ 9:00PM	御堂筋Talkin' About vol.14「大阪の観光魅力を考える」 話題提供：平須賀玲子・上田真由美（英語通訳案内士）ナビゲーター／小林卓司（ランテック計画事務所） 新大阪市長も明言するように、国際観光振興が大阪の大きな課題。通訳ガイドの目を通して、大阪ならではの観光魅力を考えます。

アイ・スポット 大阪市中央区今橋4-1-1 淀屋橋odona2階 TEL&FAX.06-4866-6803 E-MAIL.i-spot@voice.ocn.ne.jp
開館時間／11:00AM～9:00PM(土・日・祝～8:00PM) 年末年始休 地下鉄御堂筋線「淀屋橋」駅10番出口直結 京阪本線「淀屋橋」駅徒歩1分
<http://www.city.osaka.lg.jp/keikakuchosei/page/0000018184.html>

トウミン月報

2012年2月1日発行



若手11店舗が集う、古本市がオーブン。

まずは中央公会堂の展示室を会場とした古本市のニュースから。2月15日〜17日の3日間わたって開催されるその名も「水の都の古本展」は、今年で第3回目を迎える。大

阪・奈良の古書店が参加する大阪古書研究会が主催するもので、特徴的なのは店主が30〜40代と若手が集まっていること。「古臭いイメージのつきまとう古本市に、新しい風を吹き込みたい」とは、参加店の一つで、天満のタツタビル

大阪市立中央公会堂で文化系のイベント2本！

内にある「moderna」の店主・鎌田圭輔さん。いわゆる古典籍だけでなく、スタイリッシュなデザイン書や絵本のほか、一般書も並ぶとのこと。また絵葉書や摺物、ポスターなどの紙モノも多く、古本マニアのためだけではなく、街の大好きな雑貨好きにも嬉しい古本市となりそう。例年、初日の午前中は開場前から行列ができるほどの盛況ぶりのようで、近くの人は会社帰りやお昼休みにのぞいてみるのも良いかもしれない。（大迫力・本誌）

【第3回 水の都の古本展】
日時／2月15日(水)〜17日(金)
10:00AM〜8:00PM
(最終日のみ5:00PM終了)
会場／大阪市中央公会堂
地下1階・展示室
入場料／無料
問い合わせ／moderna
☎06-6940-4948
http://osaka-koshoken.com/



難波宮 大極殿発見50周年記念「難波宮 百花斉放」
日時／2月25日(土)10:00AM〜4:30PM
入場料／無料(要申し込み)
定員／800名(応募者多数の場合抽選)
申し込み方法／往復ハガキに住所・氏名・電話番号・人数(2名まで)を記入し、下記まで郵送。※2月13日(月)必着
〒540-0006 大阪府中央区法円坂1-1-35
アネックスパル法円坂6階
大阪文化財研究所「難波宮50周年」係
問い合わせ／大阪文化財研究所 ☎06-6943-6833

●第1部:発掘成果による「最新報告 難波宮」
1.再見! 難波宮の建築
2.続々新発見! 難波宮の官衙と難波京
3.新発見! 木簡が語る難波宮
●第2部:講演「日本の古代史と難波宮」
1.栄原永遠男「聖武天皇の時代と難波宮」
2.水野正好「高津宮から難波宮へ」
●第3部:対談「難波宮・半世紀の調査から未来へ向けて」



大阪の考古学の最新研究成果がわかる。続いては2月25日に行われる考古学系イベント。古代大阪に存在した難波宮の大極殿(天皇の即位儀礼などが行われる最も重要な建物)が発見されてから、今年で50周年を迎える。それを記念して行われる「難波宮 百花斉放」では、難波宮で行われている発掘調査の成果や、最新の研究が明らかにになる。

3部に分かれたこのイベントの第1部では、難波宮の建築物や出土した木簡など、近年発掘が進んで新たにわかってきた難波宮の実態が報告される。続く第2部は講演。大阪府立大学名誉教授の栄原永遠男氏、そして大阪府文化財センター理事長の水野正好氏が、それぞれ日本の古代史の中に難波宮を位置づけた講演を行う。最後の第3部は、講演に登壇した2氏に加え、長

山雅一大阪文化財研究所長が「難波宮―半世紀の調査から未来へ向けて」と題して対談。発掘調査及び研究成果を踏まえて、今後どのような展開が見られるかが語られる。古代史ファンにはまたとない機会だ。(大迫力・本誌)

難波宮から出土した奈良時代の木簡。和歌が書かれているのではないかと推測される。日本語表記の歴史、和歌の歴史などにとって画期的な発見だった。

モダン薬師堂の節分お水汲み祭り



節分という子供の頃の豆まきが懐かしいが、中之島のすぐ近所では毎年恒例の行事が行われている。ミラーボールのような外観がまぶしい堂島薬師堂の「節分お水汲み祭り」は、地元である堂島・北

新地で古くから続いていた節分のお祭りとして、2004年から復活した「お水汲み」を合わせた早春の名物イベントだ。「鬼追い」では、奈良の薬師寺の僧侶が法螺貝やドラの響きに合せて町内を練り歩き、豆をまいて鬼を追ひ払うことで、今年1年の災いを払ってくれる。続いて薬師堂にて行われる「お水汲み」では、参

堂島薬師堂
「節分お水汲み祭り」
日時／2月3日(金)
2:15PM頃〜8:00PM頃
場所／堂島薬師堂〜北新地周辺
◎スケジュールなど詳細は
http://www.ntt-west.co.jp/osaka/omizukumi/

祭りの最後には、北新地で働くホステスさんをはじめとした女性が仮装して練り歩く「お化け」も。「お化けをみればその年の北新地のムードがわかる」と話すファンも多数。厄払いがてら、お勤め帰りに立ち寄りてみては。(大迫力・本誌)

月刊島民プレスのメンバーが奈良の図書館イベントに登場

千葉県の高校生に取材されるなど、昨年12月号参照)のこのところ中之島や月刊島民についての話を聞かれることの多い月刊島民プレスだが、今度は奈良県立図書館が主催するイベントにお招きいただいた。

「シゴトヒト2days」フォーラムは、「シゴトヒト」の間にあるものを考える2日間」というサブタイトルどおり、さまざまな分野で働く人たちが、自らの仕事にまつわる話や想



シゴトとヒトの間にあるものを考える2日間
「シゴトヒト2days」フォーラム
日時／◎2月11日(祝・土)10:00AM〜5:30PM テーマ「場をつくる人」
◎2月12日(日)10:00AM〜5:30PM テーマ「編集する人」
◎2月10日(金)プレイベント 4:30PM〜7:00PM 海を越えた土地で、自分の仕事に出会い、働いている人々をスカイプで結び、語り合います。
定員／各日先着200名
参加料／1日1,500円 2日間通し2,000円 ※プレイベントは申し込み不要・無料
申し込み／図書館Webページ申込みフォームかEメール(wsts@library.pref.nara.jp)でのお申し込みが便利です。
※来館、電話申し込みはできません。
問い合わせ／奈良県立図書館 ☎0742-34-2111
◎詳細はhttp://www.library.pref.nara.jp

に、会話の中から何かヒントを見つけてもらいたいというねらいもある。今回のテーマは1日目「場をつくる人」、2日目「編集する人」で、2日目のゲストとして月刊島民プレスの大迫も登場する。中之島から奈良はちょっと遠いけれど、プレイベントも合わせれば全3日間に渡る充実したプログラムを楽しんでいただきたい。(大迫力・本誌)



中之島周辺の梅スポット情報
天守閣東側にある梅林もその見頃。1・7ヘクタールが開催される。盆梅展や梅酒の試飲会など、どれも梅にちなんだおなじみのものばかり。

大阪城公園梅林
園内は自由に観覧でき、観覧料は無料。



の梅林に約100品種・1200本あまりの梅が植えられている。見頃は2月中旬から3月上旬にかけて。(大迫力・本誌)



Data 京阪樟葉駅からバスで10分程度の大規模団地「男山団地」は築30～40年。「樟葉は高級住宅が多いイメージでしたが、かなりお手頃な値段で住める物件も多いんですよ」と語る中島家の家賃は2LDKで4万円台。街路がきれいに整備されているのもポイント高し。昨年は男山団地自治会のバスツアーに参加したそう。

休日は岐真さんが学生時代にバイト先で鍛えたパスタの腕を振るう。台所周辺には捨ればワインが出てくるサーバーなど、ふたりがすぐゴキゲンになれるアイテムが盛りだくさん。



学生時代にバイト先の寝屋川のスパゲティ屋で知り合ったという中島夫妻。2009年に結婚し、今の自宅には同年に引越。岐真さんは京都烏丸の設計事務所で働き、香織さんは新大阪の商社に勤務している。

樟葉 中島岐真さん・香織さん

暮らす楽しみが広がる
団地でのDIY生活。

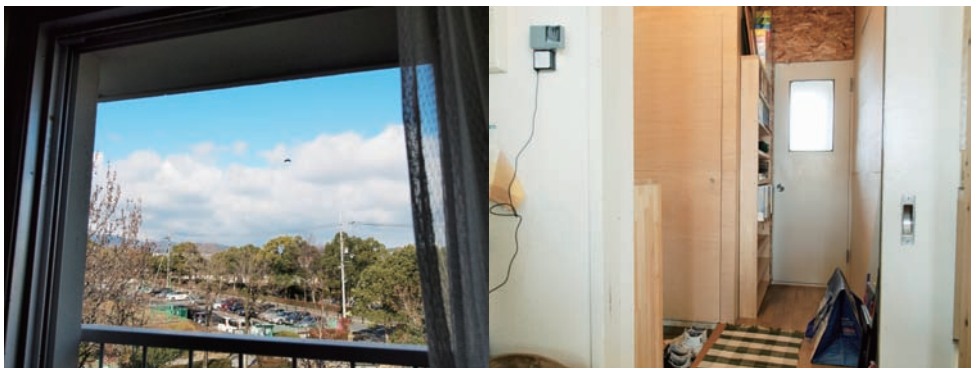
福岡生まれの岐真さんは摂南大学への進学とともに寝屋川市駅周辺で一人暮らしをはじめた。その後、バイト先の設計事務所の所長さんの紹介で樟葉の団地に住むことになった。それ以来のどかな樟葉の町を気に入り、現在はその住んでいた団地の向かい側に位置する別の棟に香織さんと住んでいる。

「緑の多い眺めが気に入っています。最寄りの樟葉駅には、職場のある京都の設計事務所から帰る際に特急が止まるのもうれしいですね。駅からバスで10分ですが、歩いて住宅街を通れば実は20分程度で意外と近いんです」。

一方、奥さんの香織さんは寝屋川育ち。通学、通勤で京阪電車を使っていたものの大阪方面に行くことはあっても京都方面に行くことは少なかったそう。「駅から少し歩いただけで、こんな閑静な住宅地があるとは知らなかった」。毎朝7時に起床し、バスで樟葉駅に向かい、淀屋橋駅経由で新大阪まで通勤している。帰りは樟葉駅前のスーパーで買い物をして帰り、岐真さんが帰宅する23時から1時ごろに食事はじまる。

「もう毎晩呑んですよ。お酒の阿テが並び、ここは居酒屋？」という感じ（笑）（岐真さん）。

ふたりが確実に休みなのは日曜日。「温かい季節は近くの楠葉東公園にワインと手づくりのパンを持って行って



左／部屋からの眺め。視界に緑が広がるところが気に入っているのだとか。右／部屋を見渡すと所々ホームセンターで買った木材でカスタマイズされている。「団地物件は収納場所が少ないので、自分でDIYできれば快適空間になりますね」（岐真さん）。

ピクニック気分を味わうこともありますね」（香織さん）。界限の人たちものんびり過ごしている姿がたくさん見受けられるそう。

岐真さんは、その公園でランニングすることが休日の日課なのだとか。走っている人もいれば、健康のために歩いているお年寄りもいて、顔なじみの方も増えてきた。周辺は家族で経営されているお店がポツポツと点在し、「近所と言えば都飯店の麻婆豆腐がオススメですよ。いつも満員です」（岐真さん）と、自分の舌と足でお店を探すのを楽



ベランダ家庭菜園。季節はずれの秋ナスがなっていた。

しんでおられる様子。

休日はスーパーマーケットやホームセンターでまとめ買いに出かけることが多い。ベランダで育てている家庭菜園の道具もそろえた。「なすび、パプリカ、ネギなどを育てています。って、食材ばかりですね（笑）（香織さん）。ほしいものはなるべく自分たちで作ろうというスタイルのようで、部屋を見渡すと所々DIY的につくられた棚が天井空間にたくさんある。気持ちいい生活のための工夫が、暮らすことの楽しさを広げているようだ。

うちの近所のお気に入り。

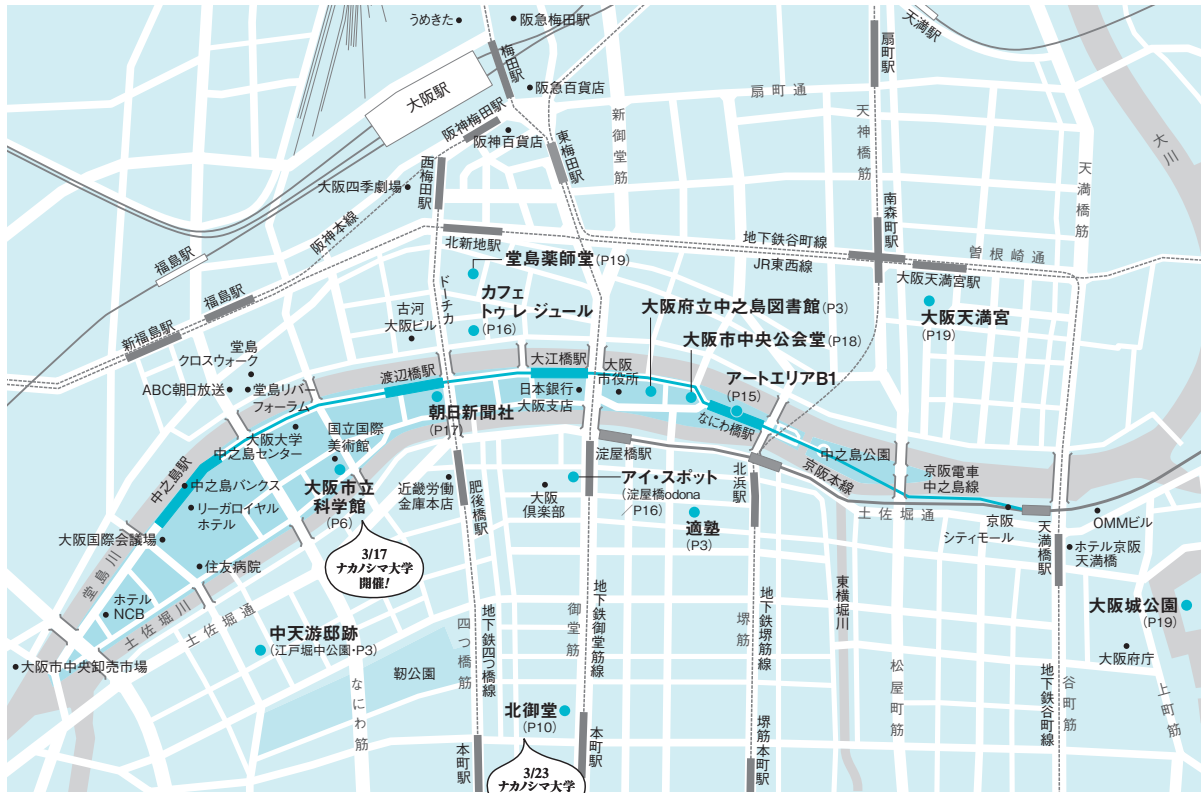


楠葉東公園

楠葉朝日3丁目の病院が立ち並び、くずはアベニュー沿いにある公園。1周550mの遊歩道があり、岐真さんは週末の朝にジョギングで利用している。犬の散歩をしている家族やバスケットボールの練習をしている子どもたち、楽器の練習をしている方など思い思いの過ごし方を気兼ねなくできるそう。「秋は紅葉がきれいで、ピクニックしている家族が多いんですよ」（岐真さん）。撮影時は1月はじめということもあり、風揚げをしている家族がちらほら。

大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、
みんな「島民」です！



『月刊島民』はここでもらえます。

●京阪電車関連 京阪電車主要駅／京阪シティモール／京阪モール／デリスタ天満橋店／ホテル京阪天満橋／ホテル京阪京橋
●大阪市北区・中央区・福島区 〔書店〕旭屋書店 梅田地下街店／旭屋書店 堂島地下街店／カベラ書店／紀伊国屋書店 本町店／ジュンク堂書店 大阪本店／ジュンク堂書店 梅田ヒルトンプラザ店／ジュンク堂書店 天満橋店／MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店／スタンダードブックストア／天牛塚書店 大江橋店／ブックファースト 梅田店／ブックファースト 淀屋橋店／文芸堂書店 淀屋橋店／隆祥館書店 〔公共施設・大学関連施設など〕アイスポット／朝日カルチャーセンター／味の素 食のライブラリー／ABC朝日放送／大阪企業家ミュージアム／大阪工業技術専門学校／大阪国際会議場／大阪市社会福祉研修・情報センター／大阪市中央公会堂／大阪市立中央図書館／大阪市役所市民情報プラザ／大阪城天守閣／大阪商工会議所／大阪大学中之島センター／大阪21世紀協会／大阪府立中之島図書館／大阪フィルハーモニー会館／大阪ボランティア協会／大阪歴史博物館／追手門学院 大阪城スクエア／関西学院大学 大阪梅田キャンパス／慶應大阪リバーサイドキャンパス／国立国際美術館／CITY NAIL'Sインターナショナルスクール／芝川ビル／市立住まい情報センター／中央電気倶楽部／ホテルNCB／メビック扇町
〔店舗・医院など〕アリアスカ マーブルトレ／アンドール 本町本店／上町貸自転車／Ultra 2nd／江戸前鰻料理 志津可／EXPO CAFE／MJB珈琲店／大西洋服店／000（オー）／カセッタ／喫茶センター／喫茶SAWA／グランドスイート中之島／黒門かえ／モモンカ／サ・メロディ／じろう亭／Grond's JR／心斎橋山田兄弟歯科／住友病院／セブンイレブン大阪証券取引所店／タビエスタイル／ティーハウスムジカ／たまがわ鍼灸整骨院／東郷歯科医院／NAKAGAWA1948 淀屋橋店／ナンジャノ／パストラーレ／花かつ／BAR THE TIME 天神／平岡珈琲店／ビルマニアカフェ／フレイルハウス／ミニロー／宮崎歯科／やきとり ばかや／吉田理容所／ラ・クッカーニヤ／LES LESTON
●大阪市内その他 〔書店〕伊勢屋書店／大阪書店／紀伊国屋書店 京橋店／なんばミヤタ／福島書店／柳々堂／ループル書店 〔公共施設・大学関連施設など〕大阪市社会福祉研修・情報センター／大阪市立図書館 〔店舗・医院など〕あじさい／アートアンドクラフト／欧風食堂 ミリパール／大阪市信用金庫 江戸堀支店／御船かもめ／Cale Bookshop and cafe／写真とプリント社／鳥かごキッチン／ネイルサロン スワンナ／バルビコ／ホステル64オオサカ／MANGUEIRA／Loop A
●大阪府下 旭屋書店 京阪守口店／学達堂 フレスト店／Books 呼文堂／水嶋書房 くずはモール店／水嶋書房 くずは駅店／大阪狭山市立図書館／大阪大学企画部広報・学連携事務局／大阪大学 21世紀懐徳堂／大阪大学本部／寝屋川市役所／摂南大学 地域連携センター／郵政考古学会／ゆったりんこ
●大阪府以外 ジュンク堂書店 新宿店／ジュンク堂書店 西宮店／水嶋書房 丹波橋店／伊丹市文化振興財団／大手通りストリートギャラリー 街・発信／納屋工房／タバーン・シン普森／百練／奈良県立図書情報館

◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円（手数料）でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

次号予告 中之島ホテル史

大阪における「迎賓館」のような場所として整備されてきた中之島を、国内外からやって来る人たちを出迎える、ホテルの歴史からふり返る。

●『月刊島民』vol.44は2012年3月1日発行です！

編集・発行人／江 弘毅（編集集団140B）
編集・発行／月刊島民プレス
若狭健作 網本武雄（株式会社 地域環境計画研究所）
松本 創 大迫 力（編集集団140B）
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341
制作進行／堀西 賢（ALEGRESOL）
デザイン／山崎慎太郎
表紙イラスト／奈路道程
印刷／佐川印刷株式会社

31分で中之島とつながる“京阪沿線理想的住宅地”



くずは駅周辺写真



ファインフラッツ樟葉 グランデ

ファインフラッツ樟葉 グランデ

- 所在地／大阪府枚方市
- 敷地面積／1,433.05㎡
- 総戸数／39戸
- ◆最寄駅／京阪電車「樟葉」駅

※所要時間は目安です。
時間帯等により異なる場合があります。

京阪グループが提供する住まいの情報
<http://www.keihan-kiss.co.jp>

つぎのくずは、見えてきた。
半世紀を経て成熟の街並みが広がる「くずはローズタウン」。花と緑と太陽の街にふさわしい住宅街とともに、ショッピングやグルメなどの多彩な暮らしを応援する「くずはモール」やスポーツ・文化を通じて豊かな暮らしを育む「京阪くずはは体育文化センター」など、生活環境をトータルに考えた理想的な街づくりを推進してきました。そうした街づくりの思想を受け継ぎながら、もっと誇れるくずはへを開発コンセプトにした「KUZUHAMALL」増床リニューアル計画や京阪グループの理想を結集したマンション計画も着々と進行しています。いまなお多くの人に愛されるニュータウンは、これからも多くの憧れをかなえるニュータウンへ。つぎのくずはが見えてきました。

